

自己評価結果公表シート

認定こども園 小樽オリーブ幼稚園

1. 園の教育目標

2022年度

本園はキリスト教の信仰に立って、神を畏れ、隣人を愛して、思いやりのある子ども、健康な子ども、自主性のある子どもを育てることを目標とする。

園児一人ひとりに対して、神と人ともに愛されるものとして、成長し、心豊かな人間性を持つよう育成することを目指す。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画を基に設定した学校評価の具体的な目標や計画

新型コロナ禍が続いていた中、昨年度同様、評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施し、教師自らがこの一年を振り返り、自園の在り方を検討、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

3. 評価項目の達成及び取組み状況

評価項目	取組み状況
幼稚園教育要領の精神を踏まえ、当園の教育理念・教育方針にしたがい編成している。	教育課程を踏まえ園長以下教諭、非常勤教諭をも含めて取り組み、当園の教育知念や方針の理解を深め、教育課程の編成に取り組んだ。しかし、新型コロナ禍の中次第に状況に応じた対応をしており、従来の仕方を変更したこともある中、取り組みを修正することによって充実した。
教育要領、教育課程、子どもの実態などをもとに考えて作成している。	今年度も指導計画に従って、子どもの在り方を考慮した内容を組み立て、一昨年、昨年度よりは復活させたこともあった。その都度、対応を考え協議しつつ、出来る限りの行事を行った。また、少人数であることを生かして、互いの関わりを蜜なものにし、各々がよりよく成長することが出来るよう計画を作成している。
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	ウイルス対策として消毒、マスクの着用、体温の記録などは日常のこととして行う生活習慣が継続されている。日々の記録、振り返りを通して、実態を把握し、月案、週案の中に必要な計画を立てつつ日々の保育にあたっている。
学期ごとに各クラスの経営の成果と課題を報告する。	新型コロナウイルス感染を予防しつつ、各クラスの月や週の目標を定め、日々達成状況を把握し、振り返りつつ、善かったところは継続し、改善すべきところを改善しつつ、取組を強化していた。

<p>子どものよさを認めて評価しようとしている。</p>	<p>一人ひとりの子どもの特性に対応しつつ、教諭がそれぞれの子どもを把握し、保育の仕方も日々工夫しながら、特に支援を必要としている子には非常勤職員を含めて手厚く対応するようにしている。</p>
<p>遊びを通して工夫したり、協力したりする姿が見られる。</p>	<p>子どもたちが自発的な遊びを楽しみ、友だちと共に一緒に遊べるという基本を中心に、友だちとの遊びを通して人間関係を良好に持てるよう配慮しつつ子どもたちの話しをよく聞いて、子どもたちが遊びを喜んで持てるよう関わっていた。</p>
<p>規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。</p>	<p>新型コロナ禍での生活習慣が身に付いた。生活習慣が身につけていたが、それを理解できない子に対しては無理にさせることはせず、自らしようと思えるときに忍耐強く待ちながら取り組んでいた。</p>
<p>全職員が一丸となって、全園児の保育を行うよう連携する。</p>	<p>保育者の人数が足りない状況が続いているが、新型コロナ禍で中止していたことも可能な限り復活させる方向で、取り組んでいた。非常勤の教諭とも協力し合いながら、園の方針を実現することを目指して取り組んでいた。保育環境を整え子どもたちが安心してあそべるよう配慮した。</p>
<p>各研修会や研究会に積極的に参加して職員に資料提供をする。</p>	<p>職員数が少ない中で、感染予防もし、外部の各種研修会や研究会に参加するのも、殆どがオンラインでの研修であった。若干集まった研修も試みられていた。しかし、まだ園内研修をするには至らなかった。しかし日常の教諭同士の話し合いの中で情報交換を毎日行い、多くを共有して保育を進めていた。</p>
<p>園だよりや合同研修会を通して、幼稚園の情報を発信していく。</p>	<p>園だよりに園の教育方針や取組みを記載することを継続し、保護者にも伝えることで理解をしてもらい、実際の状況についての情報が伝わるようにラインやInstagram、ブログなどを活用し、文書を出し続けた。</p>
<p>保護者との係りを密にし、幼稚園で行われていることが保護者に伝わるようにしていく。</p>	<p>参観日も若干増やしたが、行事などは保護者の参加を制限することは続けていた。保護者との個人面談はこの度も春の家庭訪問を変更して行った。送り迎えのバスの乗り降りの際などに、出来るだけ保護者に園での様子を伝えることは継続した。園だより以外にも、ブログ、Instagramなどを通して様子をほとんど毎日知らせるようにした。保護者からの問題提起などについても全体で協議しながら取り組んでいた。</p>
<p>園の運営状況や規則などを把握できるように園内で公開する。</p>	<p>職員の打ち合わせを定期的い、園の運営についての理解を深めるための時間を取り、規則や危機管理マニュアルなどについても確認した。また、職員の配置などを含めて園の運営に関わることにすいても理解を深めるようにした。</p>

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	<p>園の規則、就業規則、危機管理マニュアルなどを共有し、働き方の改革を考慮し、残業、有給休暇などについて確認した。教諭不足が続いているので、正職員の負担が大きくなっているため、非常勤の教諭にも可能な限り出勤してもらった。新たに正職員を確保すべく、募集を継続的にしている。各自の負担が大きくなっていることについては給与面でも処遇改善をした。</p> <p>施設面では今年度も一部屋の内装を今年もすることが出来た。また、今年度は照明器具を学園の他の園から譲ってもらうことなどを通してLEDに変更することが出来た。ので次年度も残りの分を変更することにした。遊具や椅子、机も子供に合わせて改善したり修繕をした。子ども達が安心、安全に遊べる環境になるように運転手の協力を得て努力しており、良い環境を整えることに尽力してくれている。市から紹介された農家から譲ってもらったブドウの木は順調に成長しているので、その観察もした。</p>

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
情報公開の方法	<p>新型コロナ禍後に、これまで出来なかったことの中からいくつか復活することが課題となる。また、園だよりや参観日、園バスの送迎時などを通して保護者への理解を広げるための取り組みを継続していく。日常の保護者との接触はまだ困難が伴うが機会を増やしていく工夫をしていくことが必要であろう。HPは必要に応じて、ブログは毎日更新しており、インスタグラムも更新して保護者が関心をもって見られるように継続する。また、町の発展に貢献しているマイプレにも月一度くらいの頻度で園のことを載せてもらっている。保護者の中には園の対応に納得出来ない場合もあり、色々な考え方に対応する難しさを感じることもあるが、忍耐強く傾聴して、対応していく必要がある。</p>
自己点検、自己評価	<p>教諭不足の中、苦勞することが多いが、互いに話し合う機会を持ちながら認識を共有しつつ、短い時間でも話し合いを効率よく進められるよう努力している。新たな教諭が入って来ることを含めてその取り組みを維持していく必要がある。</p>
指導計画の編成	<p>新型コロナ後、これまで変更したりしたことなどを、取り戻していく話し合いを継続的に行い、園の方針に基づいて再編し、改めて取り組む必要がある。また、従来通り環境や子どもの成長に係る内容の充実を図り、基本に忠実に取り組んでいることが変わらないので、更にその取り組みを充実出来るようにしていきたい。</p>

6. 学校関係者評価委員会の意見

別紙、委員会報告書に記されている。